【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第３区分
【発行日】平成26年6月26日(2014.6.26)

【公開番号】特開2014-92805(P2014-92805A)
【公開日】平成26年5月19日(2014.5.19)
【年通号数】公開・登録公報2014-026
【出願番号】特願2012-240960(P2012-240960)
【国際特許分類】
Ｇ０６Ｆ　12/00　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０６Ｆ　12/00　　５２０Ｇ
Ｇ０６Ｆ　12/00　　５２０Ｐ

【手続補正書】
【提出日】平成26年4月9日(2014.4.9)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００６】
そこで、本発明は、複数のユーザのうちいずれかのユーザが各工程ごとに操作を行うファイルを、複数の工程で操作する場合において、後から所望のファイルを特定可能とすべく、ファイル名に各工程ごとに操作を行ったユーザにかかる情報を逐次付加する仕組みを提供する。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００７】
本発明は、複数のユーザのうちいずれかのユーザが、各工程ごとに操作を行うファイルを記憶するファイルサーバと通信可能であり、前記ファイルを操作可能な情報処理装置であって、ユーザが操作する前記ファイルに対して、当該ユーザによりなされる次の工程へ遷移させるための遷移指示を受け付ける受付手段と、前記遷移指示を行ったユーザを識別可能な情報と、前記ファイル名とに基づいて、新たなファイル名を決定するファイル名決定手段と、前記決定された新たなファイル名で、当該ファイルを前記ファイルサーバに保存させる保存手段とを有することを特徴とする。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００８】
本発明によれば、複数のユーザのうちいずれかのユーザが各工程ごとに操作を行うファイルを、複数の工程で操作する場合において、後から所望のファイルを特定可能とすべく、ファイル名に各工程ごとに操作を行ったユーザにかかる情報を逐次付加する仕組みを提供することができる。
【手続補正４】

【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
複数のユーザのうちいずれかのユーザが、各工程ごとに操作を行うファイルを記憶するファイルサーバと通信可能であり、前記ファイルを操作可能な情報処理装置であって、
ユーザが操作する前記ファイルに対して、当該ユーザによりなされる次の工程へ遷移させるための遷移指示を受け付ける受付手段と、
前記遷移指示を行ったユーザを識別可能な情報と、前記ファイル名とに基づいて、新たなファイル名を決定するファイル名決定手段と、
前記決定された新たなファイル名で、当該ファイルを前記ファイルサーバに保存させる保存手段とを有することを特徴とする情報処理装置。
【請求項２】
前記ファイルの操作を行うユーザに対応するユーザ情報を管理する管理手段をさらに有し、
前記ファイル名決定手段は、前記受付手段に前記遷移指示をなした前記情報処理装置のユーザに対応する前記管理手段によって管理された前記ユーザ情報をもとに、新たなファイル名を決定することを特徴とする請求項１に記載の情報処理装置。
【請求項３】
前記ユーザが操作する前記ファイルに対し、前記ユーザが次の工程へ遷移が可能となる所定の操作がなされたことを検知する検知手段と、
前記検知手段により前記ユーザによりなされた前記所定の操作を検知することに応じて、前記ファイルに対する操作を、次の工程に遷移させるための指示を受けつける指示部を表示制御する表示制御手段とを更に有し、
前記受付手段は、表示制御手段により表示制御された前記指示部を介して、前記ユーザによりなされる次の工程に遷移させるための指示を受け付けることを特徴とする請求項１または２に記載の情報処理装置。
【請求項４】
前記表示制御手段が表示する前記指示部は、任意の文字列を入力可能な入力欄を含み、
前記ファイル名決定手段は、前記入力欄により入力された文字列をさらに用いてファイル名を決定することを特徴とする請求項１乃至３のいずれか１項に記載の情報処理装置。
【請求項５】
前記ファイル名決定手段により新しいファイル名にされた前記ファイルを、前記次の工程のユーザが操作するフォルダへ移動する移動手段を更に有することを特徴とする請求項１乃至４のいずれか１項に記載の情報処理装置。
【請求項６】
複数のユーザのうちいずれかのユーザが、各工程ごとに操作を行うファイルを記憶するファイルサーバと通信可能であり、前記ファイルを操作可能な情報処理装置における情報処理方法であって、
前記情報処理装置が、ユーザが操作する前記ファイルに対して、当該ユーザによりなされる次の工程へ遷移させるための遷移指示を受け付ける受付ステップと、
前記情報処理装置が、前記遷移指示を行ったユーザを識別可能な情報と、前記ファイル名とに基づいて、新たなファイル名を決定するファイル名決定ステップと、
前記情報処理装置が、前記決定された新たなファイル名で、当該ファイルを前記ファイルサーバに保存させる保存ステップと
を含むことを特徴とする情報処理方法。
【請求項７】
複数のユーザのうちいずれかのユーザが、各工程ごとに操作を行うファイルを記憶する

ファイルサーバと通信可能であり、前記ファイルを操作可能な情報処理装置で読み取り実行可能なプログラムであって、
前記情報処理装置を、
ユーザが操作する前記ファイルに対して、当該ユーザによりなされる次の工程へ遷移させるための遷移指示を受け付ける受付手段、
前記遷移指示を行ったユーザを識別可能な情報と、前記ファイル名とに基づいて、新たなファイル名を決定するファイル名決定手段、
前記決定された新たなファイル名で、当該ファイルを前記ファイルサーバに保存させる保存手段、
として機能させることを特徴とするプログラム。